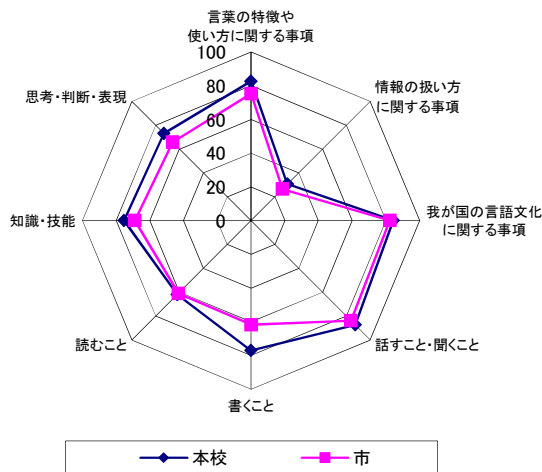


宇都宮市立雀宮中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|-----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 82.6 | 75.3 | 77.1 |
| | 情報の扱い方に関する事項 | 30.5 | 26.5 | 27.8 |
| | 我が国の言語文化に関する事項 | 84.4 | 82.4 | 81.0 |
| | 話すこと・聞くこと | 87.4 | 83.9 | 84.2 |
| | 書くこと | 77.1 | 61.7 | 64.5 |
| | 読むこと | 61.9 | 60.9 | 61.0 |
| 観点別 | 知識・技能 | 75.3 | 68.8 | 70.3 |
| | 思考・判断・表現 | 73.1 | 65.8 | 67.0 |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

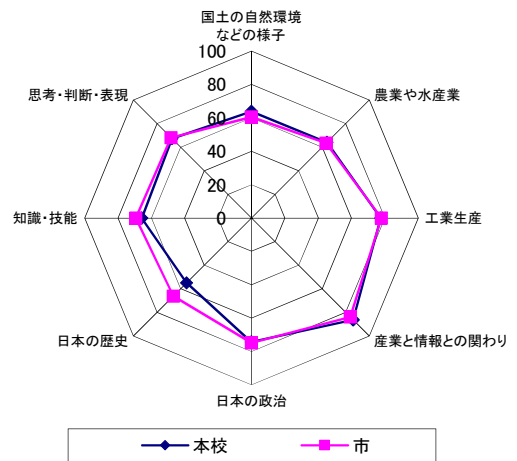
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-----------------|---|---|
| 言葉の特徴や使い方に関する事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は82.6%で、市より7.3ポイント高い。 ○文と文との接続の関係を理解しているかを問う問題では、正答率が市を10.5ポイント上回った。 ○漢字を正しく書く問題の正答率は、3問とも市の平均を上回った。 | <ul style="list-style-type: none"> ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字について、音読み・訓読みをしっかりと押さえ、漢字の成り立ちを確認したり、書き順を丁寧に指導したりする。また、短文作りを通して、漢字の意味を理解し、正しく使えるようにしていく。 |
| 情報の扱い方に関する事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は30.5%で、市より4.0ポイント高い。 ○情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書いているかを問う問題では、正答率が市を9.7ポイント上回った。 ●情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理する問題の正答率は、15.6%で、市と同程度だが低い。 | <ul style="list-style-type: none"> ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・「文章中の言葉を使って」や「○字以上、○字以内」など、条件にあった内容で表現させることで、情報の中からキーワードを見つけたり整理したりする力を身に付けさせていく。 |
| 我が国の言語文化に関する事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は84.4%で、市と同程度である。 ○語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語について理解しているかどうかを問う問題の正答率は、市を2.0ポイント上回った。 | <ul style="list-style-type: none"> ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・和語、漢語、外来語の由来に関心が持てるよう、それぞれの言葉の特徴と意味を理解させ、語彙を増やしていけるようにする。 |
| 話すこと・聞くこと | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は87.4%で、市より3.5ポイント高い。 ○インタビューの内容を聞き取り、自分の聞こうとする意図に応じて話の内容を捉える問題の正答率は、市を9.4ポイント上回った。 | <ul style="list-style-type: none"> ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・国語や学級活動での話し合い活動、総合のインタビュー活動を通して、自分が聞こうとする意図や相手に応じて、話の内容を的確に捉える力を身に付けさせていく。 |
| 書くこと | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は77.1%で、市より15.4ポイント高い。 ○条件に合わせて文章を書く問題の正答率は、「指定された長さ」が20.8ポイント、「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている」が24.1ポイント、「自分の意見とその理由を明確に書いている」が10.5ポイント、「予想される反論とそれに対する意見を書いている」が21.5ポイント上回った。 | <ul style="list-style-type: none"> ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・読書の記録の蓄積や行事などの活動の度に、振り返りを書いてきたことが、児童の書く力につながっていると考えられる。今後も、国語の作文指導以外の場で、文章を書く経験をさせていきたい。その際、段落や長さを指定するなど、条件に合った文章を書く力を伸ばしていく。 |
| 読むこと | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は61.9%で、市と同程度である。 ○叙述を基に文章の内容を捉える問題の正答率は、市を5.7ポイント上回った。 ●文章全体の構成を捉えているか問う問題の正答率は、市より6.4ポイント下回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・説明文を読む際に、はじめ、中、終わりや段落と段落のつながりを意識させ、構成が捉えられるようにする。また、学校や家庭での読書を充実させたり、長文のプリントに取り組みせたりすることで、長文の読み取りへの抵抗をなくしていきたい。 |

宇都宮市立雀宮中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|--------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 国土の自然環境などの様子 | 63.9 | 60.5 | 65.8 |
| | 農業や水産業 | 64.1 | 63.3 | 66.0 |
| | 工業生産 | 77.5 | 77.9 | 75.7 |
| | 産業と情報との関わり | 86.4 | 83.8 | 76.6 |
| | 日本の政治 | 74.4 | 74.9 | 74.1 |
| | 日本の歴史 | 55.0 | 66.3 | 68.3 |
| 観点別 | 知識・技能 | 65.7 | 69.3 | 71.4 |
| | 思考・判断・表現 | 67.3 | 68.1 | 66.4 |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

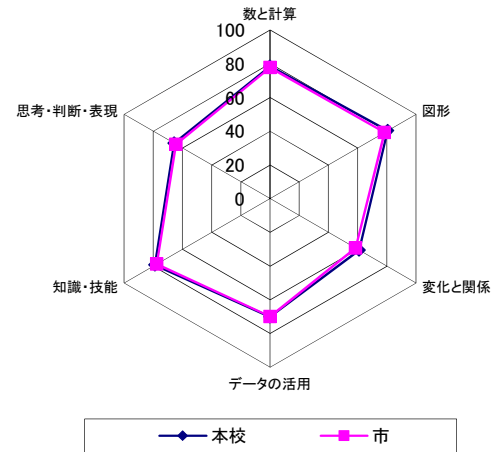
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|--------------|--|---|
| 国土の自然環境などの様子 | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は63.9%で、市より3.4ポイント高い。 ○海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成について地図をもとに考え、表現する問題では、市より10ポイント高い正答率であった。 ●日本の周辺の海洋名を答える問題の正答率は、市より5.5ポイント低い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地図帳を活用する機会を増やし、国内外の海洋、山地、河川などの位置や名称を正しく覚えられるようにする。 ・日本の気候の特色を正しく理解し、知識として定着させられるように、気温図の特徴を正しく読みとり、その特徴と気候名を結び付けられるようにしていく。 |
| 農業や水産業 | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は64.1%で、市と同程度である。 ○米の品質を高める工夫について理解する問題では、89.6%と高い正答率であった。 ●輸入などの外国との関わりにおける課題について考える問題の正答率は、市よりも3.6ポイント低い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本の食料自給率について関心がもてるように、新聞記事やインターネット資料を提示し、課題解決意識をもって取り組んでいけるようにする。 ・外国との輸入に関わる課題についての理解が深められるように、おもな農産物や海産物の輸入のグラフを正しく読み取り、どのような課題があるのかを自力で捉えられるようにしていく。 |
| 工業生産 | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は77.5%で、市と同程度である。 ○日本の主な輸出品・輸入品について理解する問題の正答率は、市よりも8.4ポイント高い。 ●自動車の製造工程や部品を再利用する目的について理解する問題では、ともに市より3ポイント以上低い正答率であった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本の主な輸出品、輸入品についての理解をさらに深められるように、各種資料を読み取る機会を設け、その特徴を正しく捉えられるようにしていく。 ・自動車産業の内容について復習する機会を設け、組み立て工場、部品を作る工場、海外輸出などの知識の定着を図る。 |
| 産業と情報との関わり | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は86.4%で、市より2.6ポイント高い。 ○産業における情報活用の現状について考える問題の正答率は、市より7ポイント高い。 ●情報の発信と受信の注意点について考える問題では、90.9%と高い正答率であったが、市よりは2ポイント低かった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ICカード、スマートフォン、タブレット端末、カーナビなど児童の身近にあるICT機器を取り上げ、産業と情報の関わりについて生活と関連させて考え、理解できるようにしていく。 |
| 日本の政治 | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は74.4%で、市と同程度の正答率であった。 ○議会政治について、資料をもとに考え、表現する問題については、59.7%と高い正答率ではなかったが、市より6.7ポイント高かった。 ●基本的人権の尊重の基本的な考え方について理解する問題の正答率は、市より4.7ポイント低い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・憲法でさまざまな権利が保障されていること、同時に義務も課されていることを想起させ、基本的人権はすべての人がもっている大切な権利であることを押さえる。 ・税についての理解を深めるため、消費税や所得税などの身近な税を取り上げ、その多くが公共の福祉のために使われていることに触れる。 |
| 日本の歴史 | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は55.0%で、市よりも11.3ポイント低い。 ○大和朝廷による統一についての問題の正答率は、市と同程度である。 ●元との戦いについての理解をもとに防塁が築かれた場所を判断する問題や、雪舟について理解する問題では、ともに5割を切る低い正答率であった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・元との戦いについて、原因と結果を復習し、一所懸命や御恩と奉公の関係が崩れるもとなつたことを押さえる。 ・雪舟をはじめとする、墨絵、茶の湯、生け花、能、狂言など、室町文化には現在にもつながるものが多くあることを復習する。 |

宇都宮市立雀宮中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|----------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 数と計算 | 78.5 | 77.7 | 78.6 |
| | 図形 | 80.5 | 78.4 | 74.4 |
| | 変化と関係 | 61.0 | 58.7 | 53.0 |
| | データの活用 | 70.1 | 69.9 | 57.2 |
| 観点別 | 知識・技能 | 78.8 | 77.5 | 74.0 |
| | 思考・判断・表現 | 65.7 | 64.5 | 58.4 |
| | | | | |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

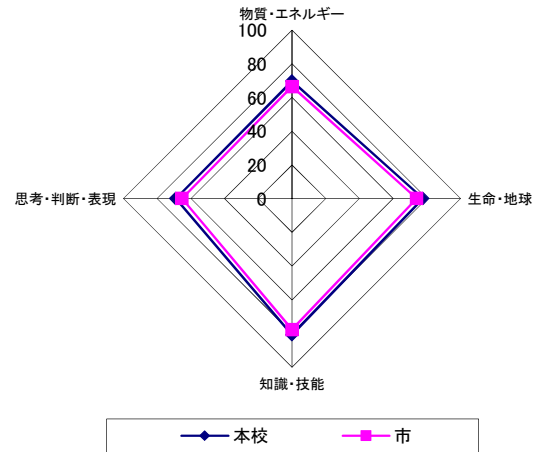
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|--------|--|---|
| 数と計算 | <ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、78.5%で、市と同程度である。 ○異分母分数の減法(約分なし)の計算の問題では、正答率が市を5.0ポイント上回った。 ●文字を使って2つの数量の関係を1つの式に表す問題では7.6ポイント市の平均を下回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> 基本的な計算の技能の定着を図るために、計算の仕方、意味について再確認し、計算ドリル等で習熟を図っていく。 文字を使って表された式について、図を用いて考えたり、簡単な数に置き換えて考えたりするなど、文字が示す意味を丁寧に確認しながら問題に取り組ませる。 |
| 図形 | <ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、80.5%で、市と同程度である。 ○半円が与えられた円の面積を求める式を選択する問題では、正答率が市を6.7ポイント上回った。 ○四角形の内角の和の求め方を説明する問題では、正答率が市を5.1ポイント上回った。 | <ul style="list-style-type: none"> 正多角形や円、角柱や円柱など、日常では出会いにくい図形について、算数教材を有効に活用して、その形や特徴を理解することができるようにする。 |
| 変化と関係 | <ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、61.0%で、市と同程度である。 ○速さの単位を理解して、分速を秒速に直す問題では、正答率が市を5.0ポイント上回った。 | <ul style="list-style-type: none"> 割合の問題を求めるときには、基準量、比較量、割合の関係を丁寧に確認し、正しい読み取りができるよう引き続き指導する。 |
| データの活用 | <ul style="list-style-type: none"> 領域の正答率は、70.1%で、市と同程度である。 ○ヒストグラムの特徴をもとに、平均値付近の記録が一番多いわけではないことを説明する問題では、正答率が市を8.6ポイント上回った。 ●度数分布表を完成させる問題では、市の平均を8.5ポイント下回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> いろいろなグラフを読み取り、度数分布表に正しくデータを記入する方法を確認するとともに、必要な情報を読み取る活動を多く設定する。 理科や社会など他教科においてもデータやグラフを読み取る活動を行うことで、それらに触れる機会を増やし、データやグラフを正しく読み取る力を育成していく。 |
| | | |
| | | |

宇都宮市立雀宮中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|----------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 物質・エネルギー | 69.7 | 66.5 | 66.3 |
| | 生命・地球 | 77.7 | 74.0 | 72.6 |
| 観点別 | 知識・技能 | 80.7 | 77.6 | 78.2 |
| | 思考・判断・表現 | 68.9 | 65.3 | 63.4 |
| | | | | |
| | | | | |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|----------|--|---|
| 物質・エネルギー | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、69.7%であり、市の平均を3.2ポイント上回った。 ○ほとんどの設問で市の平均を大きく上回った。特にコイルについての設問では、12.6ポイントと大きく上回った。 ●未知の水溶液を特定する実験についての設問で、市の平均を8.1ポイント下回った。 | <ul style="list-style-type: none"> ・実験時のグループの人数を可能な限り少なくしたり、確実に全員が実験を行えるよう配慮したりすることで、技能の習得と体験に基づいた知識の定着を図る。 ・プリントやAIDリル等を使った復習の機会を引き続き取り入れ、基礎的な知識の定着を図る。 |
| 生命・地球 | <ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、77.7%であり、市の平均を3.7ポイント上回った。 ○台風が上陸しやすい時期をもとに、ダム水位を減らす時期を推測できる設問では、市の平均を9.4ポイント上回った。 ●太陽と月の位置関係から、月の形の見え方の違いを指摘する設問では、市の平均を5.4ポイント下回った。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後も構造的な学習の展開を継続するとともに、日常生活との関連付けを意識した教材を工夫し、実験の構想から考察まで主体的に取り組めるようにすることで、より一層の思考力の育成、知識の着実な定着を図る。 ・日常生活ではあまり用いない専門的な用語や実験に関する数値などについて、授業の導入で確認したり、プリントやAIDリル等で繰り返し復習したりして、着実な定着を図る。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

宇都宮市立雀宮中央小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 | 取組に関わる調査結果 |
|-----------------------|------------------------------|---|
| 表現力向上に向けた一人一台端末の活用の工夫 | 調べる、まとめる、伝える学習や学習内容の習熟における活用 | 国語の「書くこと」の領域に関して、領域の正答率は市よりも高い。 アンケートの調査結果から、5・6年生の「パソコンを使って、相手に分かりやすく自分の考えや調べたことを伝えることができる」の設問の肯定割合は、90%以上で高い |

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

一人一台端末を効果的に使っていくことを通して、表現力の育成を図る。また、一人一台端末を活用して、家庭で授業に関する情報を調べて、分かったことを授業で生かしたり、学校で学習したことをもとに家庭学習で発展させたりするなど、学校と家庭をつないだ学習ができるように工夫し、学習内容を充実させていく。